

三ツ峠山&竜ヶ岳山行報告

【山行日】 2014年 10月11日(土)~12日(日)

【集 合】 野木町島田宅 AM 5:30

【費 用】 マイカー1台 : 5,000円

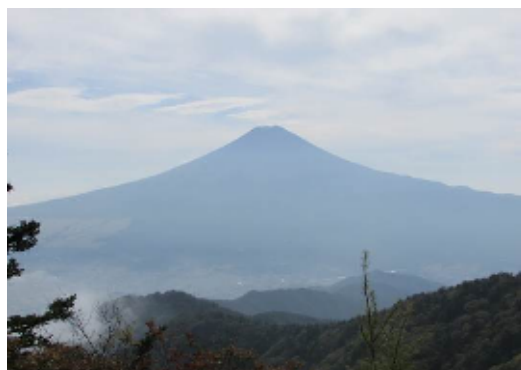
【メンバー】 CL:鈴木、石田、大西、島田、関、
田村、藤原、渡辺

10月10日(土) 晴れ 三ツ峠山表登山道から三ツ峠
山頂へ登り、府戸尾根を下って河口湖へ

A : 野木町島田宅 5:30=憩いの森 P8:40/9:00~

股のぞき 10:00~八十八大師 11:00~四季楽園 12:00~三ツ峠山 12:15/12:40~四季楽園 13:00~
送電鉄塔 14:25~湖畔下山道分岐 15:15~湖畔登山口 16:00=民宿「カトリア」16:40

B : 憩いの森 P8:50=裏口登山口 P9:40/10:00~ベンチ 10:45~四季楽園 11:20~三ツ峠山
11:40/12:40~四季楽園 13:00~裏口登山口 P13:40=湖畔 P14:00/15:40=湖畔登山口 16:00



三ツ峠山に登りたいとのリクエストがあり、ダイヤモンド富士で有名な竜ヶ岳と併せて、宿泊山行を計画した。今回も、健脚コースとのんびりコースに分けて登り、山頂で合流して昼食後府戸尾根コースを一緒に下山した。三連休の渋滞を予測し、出発時間を30分早くしたが、八王子JCT手前から渋滞に巻き込まれ、憩いの森Pへ40分遅れて到着した。

三ツ峠山表登山道は、修験道の開祖「役の行者」により開かれ、廃仏毀釈となる明治維新まで

栄えた由緒ある登山道。山麓の憩いの森Pでトイレを済ませストレッチをしてスタートする。林道を15分ほど歩くと達磨石に着く。広場に、大きな石に梵字が彫られた達磨石が鎮座している。達磨石の横を抜けて、林道を渡った所が登山口。登山口からは植林帯に続く、急峻な尾根道に行く。溝状に掘れたジグザグ道を登り、大曲で鋭角に左に折れると「股のぞき」に着く。樹相が自然林に変わり、急登をしばらく行くと岩交じりの登山道に変わり、巨岩を縫うように不二石を過ぎると八十八大師に着く。ベンチで休憩し、コーヒーブレイク。手作りのチーズケーキとコーヒーで至福のひと時。ここからは山腹を巻くように進む。山肌が崩落した個所を巻いて進むと、コウモリ沢の源頭部を木の橋で渡る。緩やかに巻ながら登って行くと、やがて屏風岩の東端に上がる。



三ツ峠山屏風岩は、関東近県では有数のクライミングゲレンデとして知られ、今なお多くのクライマーに親しまれている。クライマーを見ながら、屏風岩の基部に沿って下り気味に進むと、最後の急登が待っている。急な階段状を登りきると、営業小屋の四季楽園の前に出る。ここから富士見小屋



の前を通り、滑りやすい土斜面を登りきると三ツ峠山山頂に出る。山頂では裏登山道から登った三名が出向かてくれた。

富士山や南アルプス等の大展望を楽しみ、先行して登った我輩が作ったカレーうどんで舌鼓。

日本一の富士山を見ながら食べるカレーうどんは、もちろん日本一の味がした。

デザートを戴き、お茶を楽しみ記念写真を撮って下山する。途中四季樂園手前のトイレに寄り、四

季樂園のテラスから屏風岩の眺望を楽しみ府戸尾根を下った。母ノ白滝への道を右に分けて直進し、

長い下りが始まる。カラマツの植林帯を、緩やかに下る道は歩き易い。時折富士山を見ながら、しばらく下ると送電鉄塔が建つ草地で眺望が開ける。霜山を過ぎ、西川新倉林道手前の湖畔下山道分岐を右に下る。林道を横切り、植林帯の薄暗い登山道を河口湖に向かって真っすぐ下る。

浅川の林道終点でCLが車を回して出迎えてくれ、30分の舗装道歩きがカットされた。

コンビニに寄り、明日の昼食や飲み物を購入し宿に向かう。「カトレア」は、温泉は無いが食事は普通の家庭の料理で豪華さはないが美味しく、ボリューム満点で、我輩お気に入りの宿。

10月11日(日) 曇りのち晴れ 本栖湖キャンプ場から竜ヶ岳に登頂し、北面登山道を下り本栖湖登山口まで下山。

民宿「カトレア」8:00～本栖湖キャンプ場 P8:15/8:30
～竜ヶ岳登山口 8:40～展望台 10:10～分岐 10:50～
竜ヶ岳 11:05/11:40～分岐 11:50～本栖湖畔登山口
13:00～本栖湖キャンプ場 P13:30＝野木町島田宅
16:55

朝5時に起き、顔を洗って登山の準備をしていると、「河口湖までドライブしたい。」とリクエスト。

食事が7時からなので、6時から1時間全員でドライ

ブに出かけることにする。西湖の北岸を通り、文化洞トンネルをくぐり、湖北ビューラインを走る。天気は悪くないが、上空にガスが掛かり富士山は見えなかった。途中大石公園の看板を見て「ここは



花が綺麗な場所だから。」とバックして寄ることにする。ミニ富士山があり、周りにはたくさんの花が植えてあり、その間に遊歩道がある。皆さん気に入った様子で、どんどん奥まで歩いて行き帰る気配がない。「そろそろ行かないと河口湖一周できないよ。」と言うところを見て帰ればよいと言う。のんびりお花を見て車に戻り、ここから宿へ戻ることにする。宿に戻り朝食をいただく。朝食も普通の家庭のおかずだが、ボリューム満点で美味しく、つつ

い食べ過ぎてしまった。支度を整えて、竜ヶ岳登山口がある本栖湖へ向かう。



竜ヶ岳が注目を浴びたのは、辰年でもあり、ミレニアムの西暦2000年のことである。富士山頂から



朝日が昇る絶景、ダイヤモンド富士が丁度元旦頃に山頂から眺められることもあり、人気の山となった。本栖湖キャンプ場Pに車を置き、キャンプ場の中を標識に従って歩いて行く。車道を渡り、さらに進み分岐を左折すると登山ポストがある登山口に着く。ヒノキ林の中を九十九折れに登る登山道は、整備が行き届いていて歩き易い。途中から明るい雑木林に変わり、リンドウやセンブリ等の花が目を楽しませてくれる。小ピークを

過ぎて、一旦下ってまた登り返す。途中から振り返ると、富士山の山頂部が雲の上に顔を出している。

しばらく登ると笹の中の登山道となり、石仏と東屋がある、展望台に着く。ここは富士山が望める絶好の展望台だが、今日は頭が見え隠れするだけで、中々顔を出さない。ミカンとまんじゅうでエネルギーを補給し、山頂へ向かう。スズタケの急斜面を登って行くが、九十九折れに付けられた登山道は歩き易い。富士山も途中までは、1/4位まで見えるようになったが、山頂手前からガスが掛かって何も見ることが出来ない。傾斜が緩やかになり、下山路に使う北面登山道の分岐に着く。ここからは、スズタケを切り開いた道をまっすぐ辿って、広々として平坦な竜ヶ岳山頂に出る。山頂からは富士山



や先日登った鳳凰三山、南アルプスの秀峰が見られるはずだったが、今日はあいにくガスが掛かり何も見えなかった。写真を撮り、奥のテーブルとベンチで昼食を食べる。今日の山ごはんは、ミソラーメン。ネギをたっぷり入れ、メンマとチャーシューでトッピングしたミソラーメンはとても美味しかった。

下山は分岐まで来た道に戻り、左に折れて本栖湖畔へと降りて行く。竜ヶ岳北面は、イヌブナやミズナラ、カエデ類をはじめとする豊かな広葉樹に覆われて素晴らしい。「やまなしの森100選」にも指定され、登りの登山道とは異なった趣を楽しめる。中間点あたりのベンチで休憩し、案内板から九十九折れの登山道を9回曲がると遊歩道に出る。左に進み湖畔の舗装道へ行くのが正式な道だが、まっすぐに広場を突



っ切り道路に出たが、広場は立入禁止になっていた。湖畔の道路を左に進み、T字路をそのまま横切って、キャンプ場を進むと駐車場に着いた。

帰りは連休の渋滞を避けるため、何処にも寄らずまっすぐ高速道に入った。渋滞もなく、順調に走り予定よりも2時間早く野木に着くことが出来た。

Sさんの会社の施設を利用出来た為、格安の費用で宿泊山行が出来、充実した山行となった。

